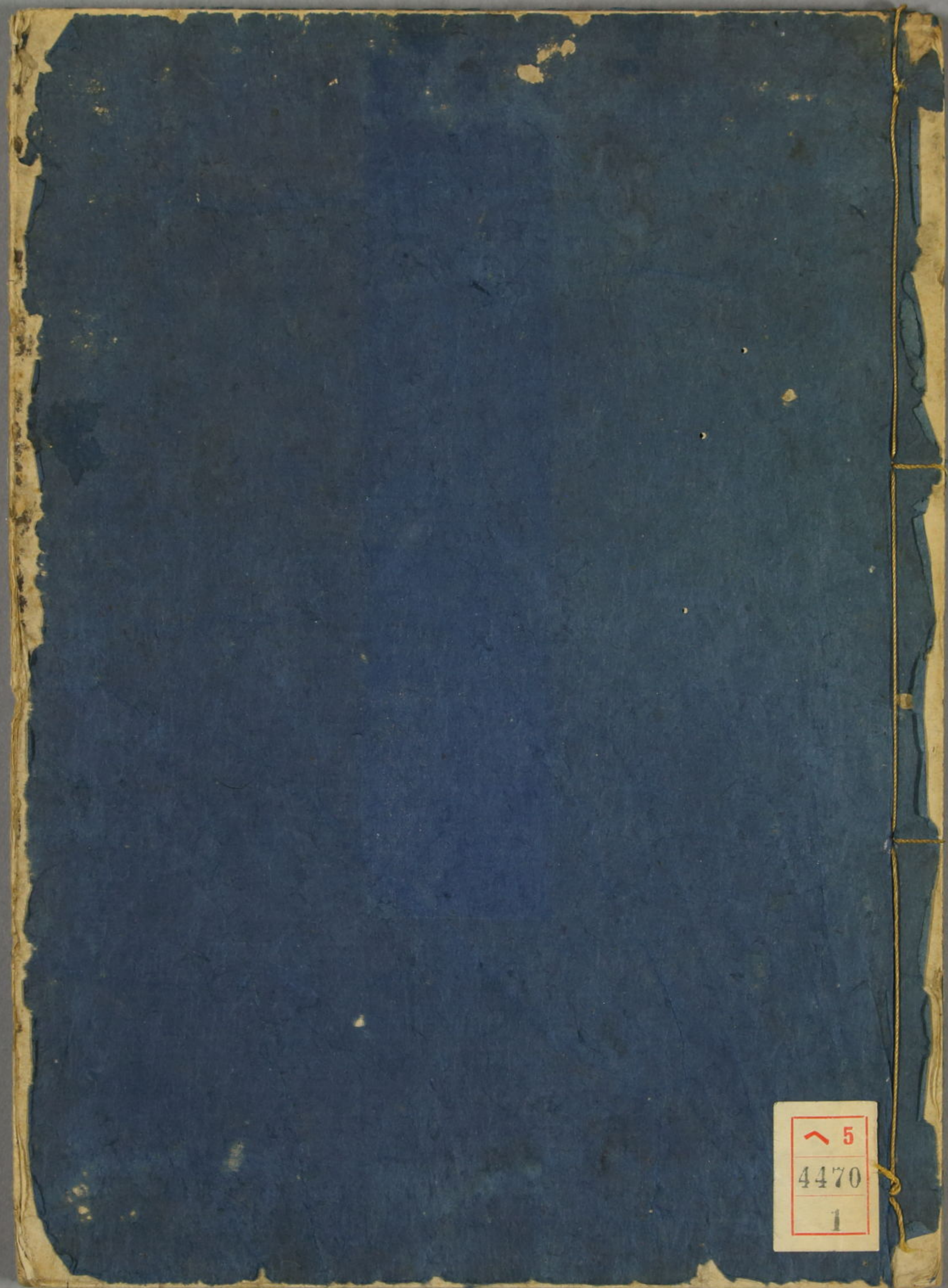




5
4470
1



5
4470
1

4470
1-5

八

正



森

朝

月

滋

昭和九年
十月一日
購求

丁改



五老井許六選

五老井許六選



風俗文選序

月澤 律師李由述

飛蝶乃羽友子。五老井の許六。滑稽
俳諧新古今文事と拾ひ集めく風
俗文選と題して。むしやまと新文選集め
て。この本を

本館文粹といへり。我おふ。け文粹々。
本館の人お述作して。文乃作。かしく

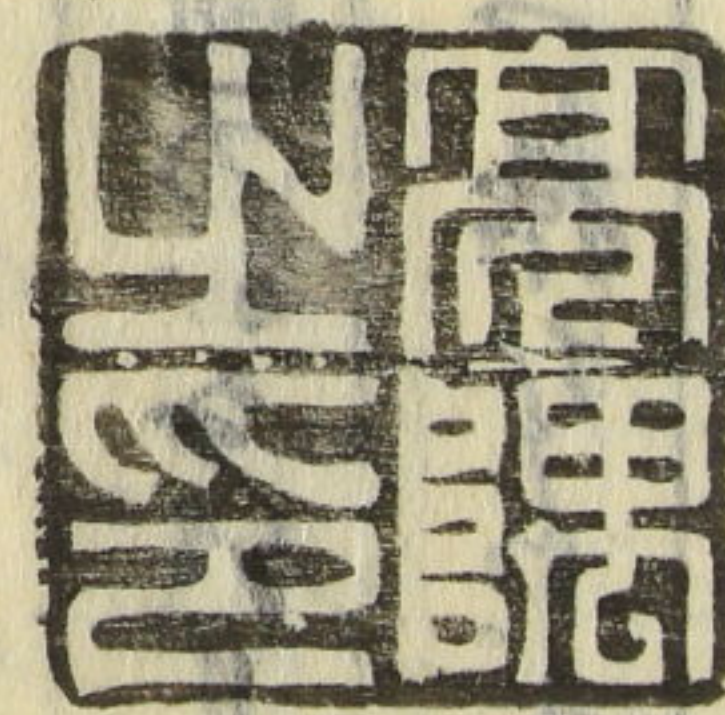
漢文なり。今神より文選。和歌の
又素より其作をのび。漢文は
へ。む。い。ふ。り。や。も。と。回。お。う。と。ま。る。き。
双紙お徳のをくいの。い。て。

本朝の文章と稱ふ。お徳。今此風
俗又選の。い。な。り。い。ま。漢文は。文章
教を定ぬ。顔より。て。を。格。より。ま。さ。る。か。
へ。され。と。回。い。素より。文選。古文

とい記する。此を神お徳あれ。漢文と
も。怪。なり。と。い。ふ。て。和文。は。文章
乃教さる。あ。顔字。と。も。な。い。と。ま。
を。素。の。荒。賊。も。お。ま。お。通。の。か。み。り。顔
も。是。和。文。は。顔。を。あ。ま。る。一。格。なり。あ。ま。ら
顔。を。用。る。も。よ。す。其。子。あ。ま。る。い。自
由。なり。い。回。は。神。を。い。ひ。り。を。ま。る。の
を。い。ふ。く。そ。う。神。を。ま。る。を。ま。る。人

卷一

卷三



落柿舍
去來

文卷一

衣を穿も。自甚能乃才あわく。許多の跡をり。良
 とい。此を子威のほに於いて。ふん。又。多。あ。り。本
 と。さ。は。彼。事。を。い。ひ。ゆ。乃。の。讀。を。教。ふ。類。な。う。ん。や。
 け。又。と。ま。ま。る。者。い。げ。道。を。ま。る。者。多。く。作者。の。い。う。
 む。と。先。中。と。稱。ま。る。と。あ。い。湖。東。森。氏。の。い。う。く。
 虚。実。の。い。う。く。の。い。う。く。一。と。ま。る。く。今。其。名。望。を。風
 一。て。け。又。選。を。ま。る。く。又。も。家。の。い。え。の。日。序



風俗文選序

東華坊文考

風俗一。ふ。文。選。ある。時。に。昔。知。よ。文。選。な。う。人。や。と。
 あ。う。一。そ。う。い。く。い。う。よ。と。お。き。湖。東。の。氏。子。許。羽。友
 才。多。い。文。才。多。う。固。れ。乃。ん。を。傳。へ。在。世。の。多。う。教
 業。せ。う。被。く。和。漢。よ。ん。を。け。ふ。ま。と。う。ん。安。を。傳。へ。う。
 う。お。ら。又。よ。れ。也。人。々。を。ま。る。く。は。ま。う。く。それ。を。
 つ。ふ。う。く。と。お。お。い。く。な。う。又。ま。は。何。乃。ん。あ。う。人。
 ん。と。て。此。乃。ん。か。ら。う。す。う。い。世。に。ふ。文。化。一。て。う。と。ま。
 化。を。ま。る。く。人。を。い。う。漢。を。ま。る。く。人。と。い。う。い。ま。ま。道。
 人。乃。ト。あ。を。ま。る。く。も。乃。よ。う。う。少。く。よ。ん。な。う。れ。も。

世にまゐるにてもはるん。碑にむいし。おと
 さふめい。世に乃。後目。あふふ。合点。とる。も。
 何る。おと。家。神。の。終。宴。祀。も。あふふ。も。味。乃。
 帯。に。集。も。お。の。神。く。ん。よ。何。い。く。じ。の。
 も。い。は。ま。い。か。と。い。ま。な。り。天。と。神。と。を。
 月。よ。あ。い。い。地。を。と。神。を。と。花。よ。あ。い。竜。吟。
 い。神。が。や。う。な。り。虎。味。ま。ば。亦。も。一。梅。も。雪。
 お。ま。い。一。麻。い。つ。ま。い。ち。神。傳。い。も。て。あ。い。
 む。先。師。つ。い。い。つ。い。い。漢。よ。之。乎。者。也。の。四。字。を。
 り。て。孝。弟。を。早。お。祀。を。と。り。ち。和。よ。い。あ。い。と。波。の。
 雲。と。り。て。異。一。涼。一。の。時。を。と。り。い。い。又。ま。い。

す。て。あ。い。と。波。乃。り。ち。や。ま。い。神。に。一。句。
 衣。冠。を。あ。い。も。二。句。お。句。續。を。あ。い。も。い。も。い。も。
 息。乃。つ。ま。い。神。に。い。て。海。を。海。龍。場。と。い。も。
 つ。ま。い。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。
 其。一。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。い。も。
 家。に。い。文。選。乃。時。を。い。て。あ。い。も。い。も。い。も。い。も。
 少。う。

寶永元年甲申臘月日

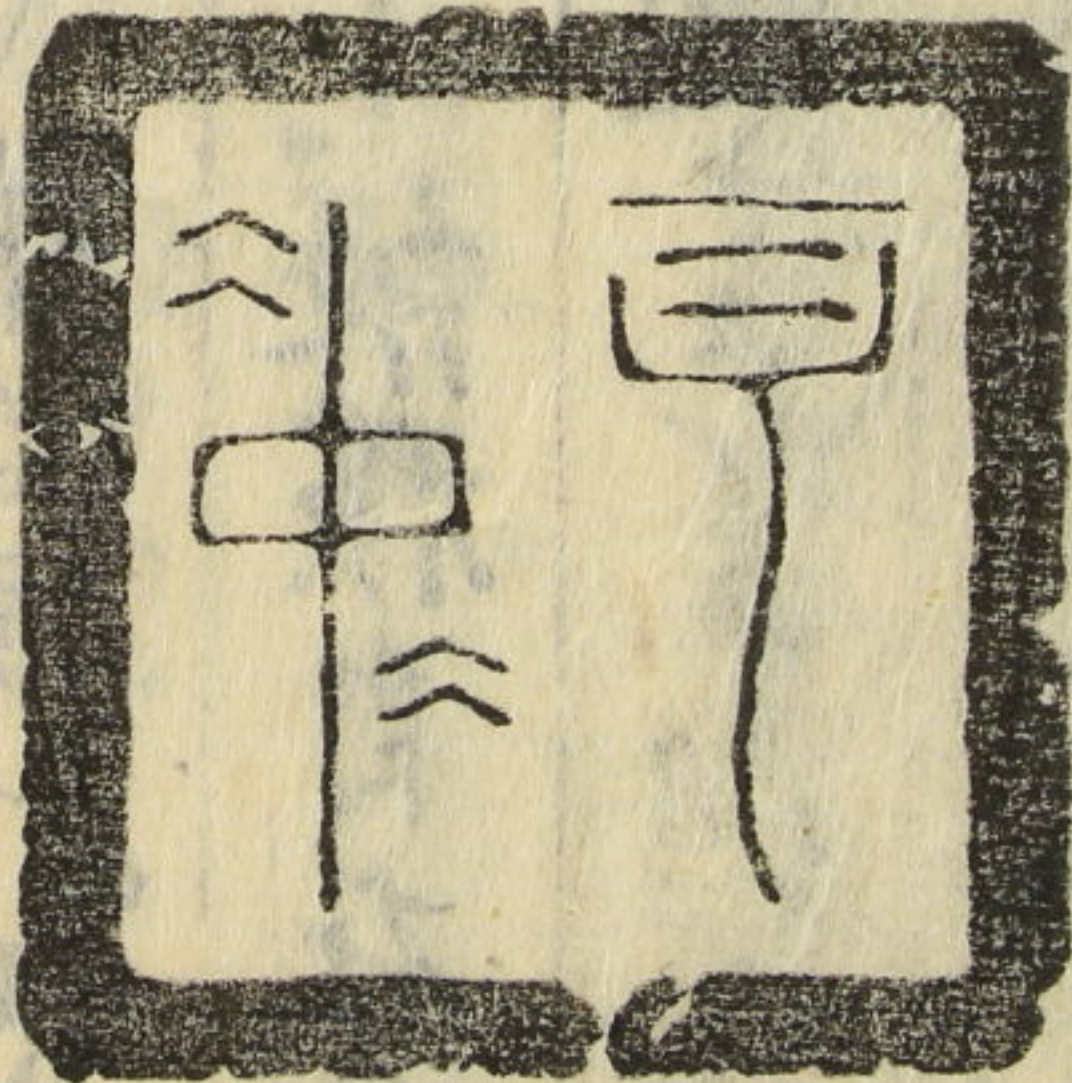
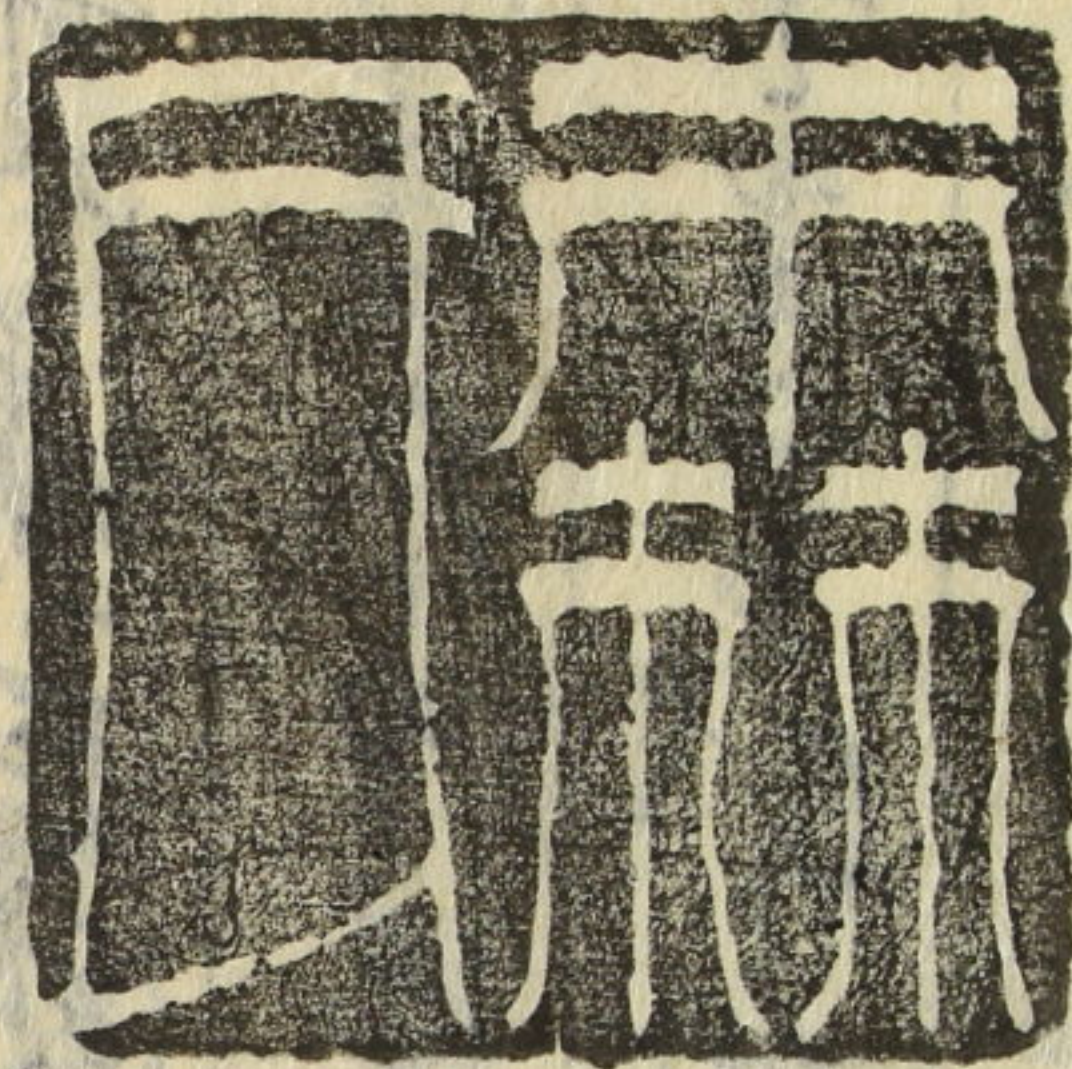


風俗文選

自序 五老井許六選

文々貫道ノ器也。孔子も筆力あり、
此れを學ぶと上り、吾邦禮節のむし
より、大和詞代文筆、庫子も車子
みて、むしと世ふて、おれ、え、
おれ、え、女家の子より、源氏様

山北をのみこもて、
わを井許子の撰に集て、
自序して風俗文選といふ云々



本朝文選

○作者列傳

芭蕉翁者伊賀之人也。武名松尾甚七郎。奉仕藤堂家。壯年時辭官遊茂別江戶。風雅爲業。號桃青。乃誹諧正風。射中興閑祖也。寧世爲遺功。修武小石川之水道。四年成。速捨功而入深川。芭蕉菴出家。年三十七。天下稱芭蕉翁。遊東西南北。說風雅。助諸門人。國中悉歸芭蕉風。一遇難波津伏病。終卒。年五十一。葬江別義仲寺。

浪化者。東門主一。如大僧正之連枝也。號應

真院。居千越中井波瑞泉寺。一日遊洛會。芭蕉翁效風雅。後著有磯海前後集。病薨。年三十二。

僧文艸者。尾州大山產也。壯年辭武出家。隱松本山上。蕉門之騷客也。能詩。後三年閉關而終。不出。病死。常讀法華經。年四十四。僧千那者。江列堅田產也。居千本福寺。釋名妙式上人。掌任律師。號蒲萄坊中華蕉門之高弟也。

僧李由字買年。近列之產也。居千光明遍照寺。釋名亮隅上人。掌任律師。入蕉門而學風雅。年久。故著韻塞篇突字陀法師書。病死。年四十五。

支考字盤子。號東花西花。亦號獅子庵。濃列之產也。入蕉門業風雅。一方門人也。先師滅後。遊東西南北。說風雅而助諸生。故往往慕支考風者多矣。中遇居于勢列山田。後歸故國作誹書數篇。辨俳諧之論。晉其角者。武列江戶產也。生醫家。不學醫術。終業俳諧。寶井氏號狂而堂蕉門之一人。而後起已一風。著誹書數篇。嵐雪者。服部氏不知何許人。業風雅。遊武江。

戶蕉門之高弟也。後別妻出家。

野坡者。越之前列人。生商家。居于武江戶。蕉門之學者也。一遊西海。不定其所居。隨師得炭俵之撰号。

北枝者。加列金澤之人也。業磨工。見蕉翁好風雅。北方之逸士也。

凉菟者。勢列山田神職之人也。業風雅。初號團友。

露川者。伊賀之人也。生商家。居于尾名護屋也。好蕉門之風雅。

雲鈴者。奥列南部之人。產武。壯年入道。自號

摩詰菴婆且人。風雅師。東花坊。一渡。依渡。

島著入日記。

吾仲者。洛陽人也。居于六條。業佛畫。好風雅。師李由。自號柳後園。著柿表紙三卷。

路通者。不知何許者。不詳其姓名。一見蕉翁。聽風雅。其性不實輕薄。而長違師命。飄泊之中。著俳諧之書。

凡兆者。加列之產也。業醫。居于洛。學蕉門之風雅。一罪事。不知其終處。

素堂者。山口氏也。居于武陽。避世務。隱于深川。友芭蕉翁善。

嵐蘭者不知何許人。松倉氏業武奉仕板倉家。而奉諫速辭官。携母隱于武淺州。蕉門之老弟也。為月遊于鎌倉病死。

荊口者濃別大垣之武士也。宮崎氏蕉門故老之士也。此節千川文鳥三士之父也。後致仕改名東空。

去來者肥前之產也。後隨兄居于洛陽。向井氏也。中華蕉門之高弟也。號落柳舍。隨師選後簍。後病死年五十三。

万子者加列金澤之武士也。生駒氏號此君菴。蕉門之英士也。

厚為者加列太聖寺之武士也。河地氏蕉門之英士也。病死。

木導者江別龜城之武士也。直江氏自號阿山人。蕉門之英才也。師翁稱奇異逸物。

汶村者江別龜城之武士也。松井氏字師薑。號九華亭。蕉門之達士也。嘗能書畫。繪師五老井。

毛純者江陽彦城之武士也。北山氏號大雅堂。好風雅。愛畫圖。師五老井。

程已者近列龜城之武士也。朝倉氏號白目堂。愛蕉門之風雅。

朱迪者江陽度城之武士也。寺島氏号其露臺。年久好風雅而入蕉門。病死年四十三。撰者許六者江列龜城之武士也。名百仲。字羽官。森川氏號五老井。别号菊阿佛。一見蕉翁得正風躰實血脉道統之門人也。常友寺由撰俳書數篇。

以上二十八人

風俗文選目錄

五老井許六選

○卷之一

辭類

柴門辭

芭蕉翁

辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

寺由

送新道心辭

丈艸

燒蚊辭

嵯蘭

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

○卷之二

賦類

南都賦

汶村

鎌倉賦

許六

吉野賦

文卿

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐蘭

湖水賦

李由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去來

○卷之三

賦類

附譜

鼠賦

去來

旅賦

許六

揚揮豆賦

毛統

四器廬賦

李由

閑居賦

茂村

招魂賦

支考

譜類

百鳥譜

支考

百花譜

許六

山水譜

許六

○卷之四

說類

叢虫說

素堂

柴賣說

九兆

閉關說

芭蕉

師說

許六

名阿段說

許六

出女說

木尊

雜說

不知作者

愛釋說

万子

叶字藤說

程已

草刈說

露川

山竿說

吾仲

嘲霄惑說

毛統

解類

獲麟解

許六

長雪隱解

許六

藪醫者解

汶村

○卷之五

記類

落柿舍記

去來

幻住菴記

芭蕉

十八樓記

芭蕉

五老井記

許六

九華亭記

汶村

琵琶亭記

許六

風水二臺記

許六

紀行類

鹿島紀行

芭蕉

南行紀

李由

序類

曠野序

芭蕉

猿蓑序

其角

真柳後園序

支考

要文集序

許六

近江八景序

千那

画樓繪舍序

許六

四絕文章序

李由

麻生後序

許六

銀河序

芭蕉

番椒序

野旅

○卷之六

箴類

飲食色欲箴

許六

聽箴

許六

銘類

机銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

許六

茶碗銘

嵐雪

雲華園銘

汶村

飯鉢銘

吾仲

左右銘

芭蕉

是非齋銘

許六

誄類

嵐蘭誄

芭蕉

丈艸誄

去來

去來誄

許六

○卷之七

歌類

挽歌

支考

鄙歌

五首

文類

俳諧發願文

浪化

聖靈祭文

李由

剃髮文

支考

祭猫文

支考

吊古戰場文

芭蕉

斷絃文

許六

○卷之八

傳類

公平傳

汶村

東嶺傳

芭蕉

牧童傳

支考

五郎四郎傳 支考

靈虫傳

去來

和氣傳 李由

直指傳

許六

碑類

壺碑

芭蕉

笠塚碑

李由

○卷之九

辯類

詩歌誹諧辯

丈艸

定先後辯

支考

豆腐辯

許六

天狗辯

木尊

手足辯

汶村

人參辯

許六

射御辯

許六

表類

雨乞表

許六

嘲佛骨表

其角

讀佛骨表

厚為

陳情表

支考

○卷之十

論類

旅論

許六

仁不仁論

北枝

蕎麥論

許六

頌類

誄諧頌

李由

蕎麥切頌

雲鈴

酒德頌

朱迪

石臼頌

芭蕉

讚贊類

西行上人像讚

芭蕉

神農讚

涼兔

義少年畫讚

許六

團扇贊

荊口

入學贊

許六

紫芝叟贊

許六

書類

院艷書

月蓮上人報書



東

— 100 —

借

100

100

1

不

柴門辭

芭蕉

瓢辭

許六

示秋之坊辭

支考

示古鏡辭

李由

送新道心辭

丈州

燒蚊辭

嵐菊

鉢扣辭

去來

四季辭

許六

風俗文選卷之一

五老井 許六選

辭類

柴門辭

送歸許六之故鄉
餞別之文也

芭蕉翁

コサ
云々秋。り。神。と。面。と。あ。る。を。ふ。り。み。月。の。う。み。深。地。
別。と。や。い。じ。も。と。う。秋。よ。お。と。み。く。び。と。も。廊。と。ま。い。
て。他。日。軍。候。を。け。ん。と。も。思。へ。僧。を。ぬ。こ。内。新。を。お。と。と。
こ。ろ。ん。よ。と。う。あ。ま。の。修。と。何。が。あ。ね。じ。や。内。新。の。あ。
ぬ。じ。と。い。へ。内。新。を。何。の。あ。も。し。と。や。画。の。れ。も。し。と。と。
て。い。も。ち。ま。う。と。う。二。う。て。用。を。け。け。の。一。う。あ。ま。の。ま。と。
や。あ。ま。の。ま。と。を。ね。と。と。ま。い。二。う。で。用。一。う。あ。ま。の。ま。

世に花傍ぐとき世情のうき名をわてむ。いふのそ
うは強う志くおとなしんや。

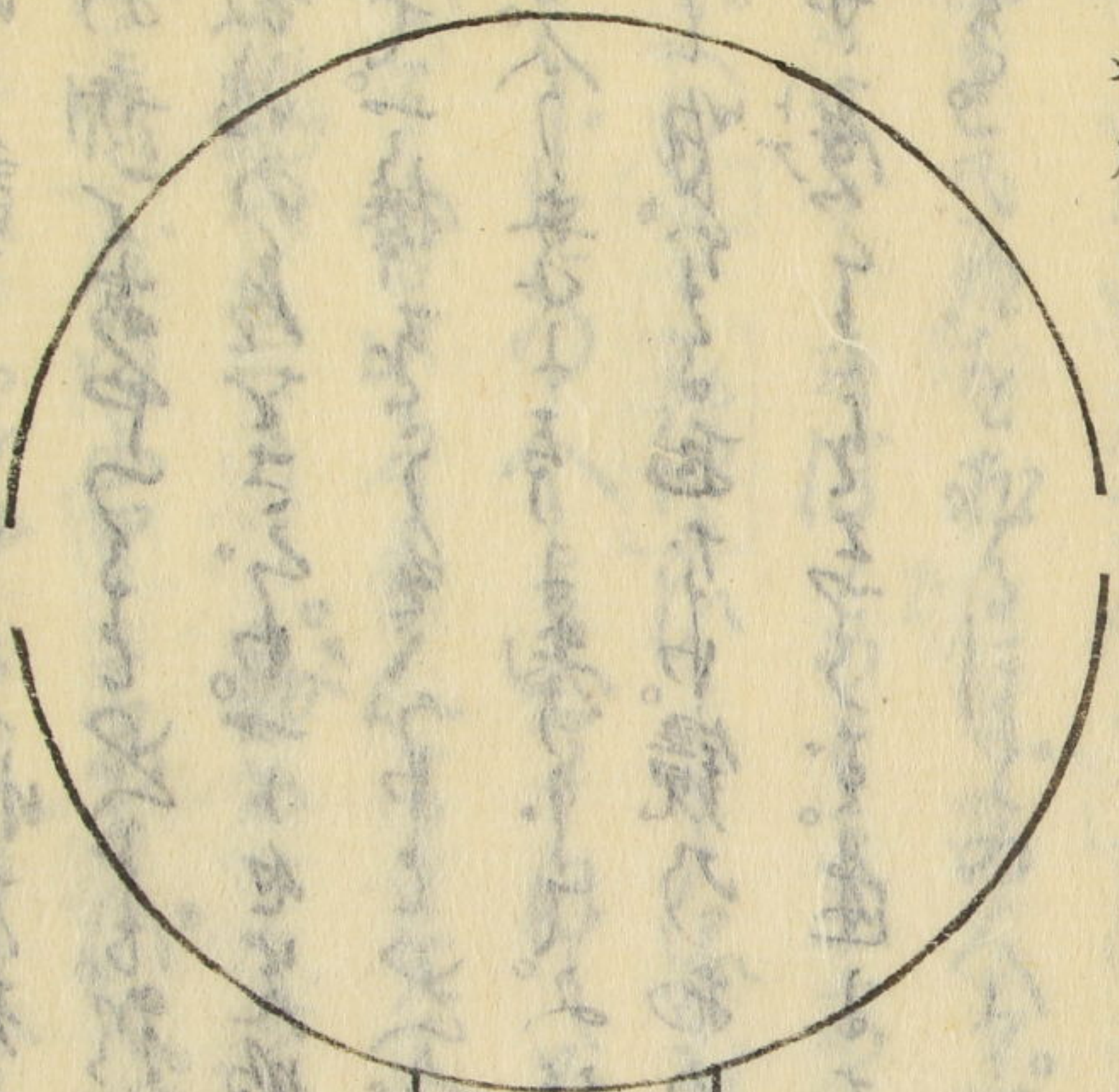
凡ゆるいふよふおもや陸如記

示^ス僧古鏡^ニ辞

李由

あゝも俗あり。古鏡とつて。そま業より一として。東海の浪
あそぶ。また濃列園なう。ばど志津。孫六が襪^{キタ}を得て。
紫電^{シデン}白中^{ハクチュウ}秘^ヒとと。こスルいと振ハさんや。天下
誰あひく。顔もろく。あらん。さるるむじ。は知^チ今
乃ま刀とおひく。後成踊り花の鏡もうち思ふこと。今

こま村の津よ。いひは祭りや。一もさうね。
後^{カチ}陸^{リク}乃^ノま加道^{カミチ}。さうま。まのよと。さう。
ふも又な。



此人がいへば詩をよくと。多情有夢の画と彩つ。春云
甘き新弄とあやつるといふも。新以新と足をとふ
ごとく。敷居のたもとさぐわ。つとせ先明。園新花後の比
まゐるで。一棒をうきうきといふも。いふふ涙はも
むきと。今まよふ子判りて。ふ後を磨ぐむとす。此
雅なり。唯なるおなり。鏡の如の如をうけいかに。
汝え事。磨ぐとをうきと。磨ぐとをうきと。磨ぐとをうきと。
たふあり。

分別と花のうきも

新以新と足をとふ

贈新道心辞

丈艸

世をながきてるをぬるほどの人か。皆つかじお志を
一してまゐる。きはとめとも志ある新だ。年をとるね
る新だ。又かきこ新はいくく縁おひく。予驚くなら
て。又さう。たの人もおひく。ぬさるふひめ。おわ
回うた。古人もけさるをいふ。たてお家らお家お持た。
お家を遊べさう。おめををさう。ぬ。曾九さう。
みのふ。悟るなり。心もあつて。いふさう。むかひ
なり。いふさう。悟るなり。悟るなり。悟るなり。悟るなり。

いづて汝がおこなふを。極まるもなぐ。そのゆゑ。
なり。あつたきうくしもの。やうくさういふものあり。そ
ろむべきものの基ふ也。

叙。帳中より叙。汝をやと。辞をよめ。汝はてを
をまぐ。廿八。家より死をもと。みづからそつたつた。

子也啼むと子能ぬも較乃答む

鉢扣辭

去來

(所をも二十四回。をもかぎわたり神を。神をうまひ
 例の龜の目より一ふ。こゝにいへるをきく。あな
 かりて。さふもあらね。うに神はいふ。たふと。びわ
 おのく。

等。一也。志仰ても見せし辞押と。所決の竹うをた
 し。心をも移す也。^ハ方家をかこはひめり。お種ど。終
 おい種なるゆし。乃。似るべし。もあゝむ。か終が晩わハ。
 瓢箪となす。ト。祇打する義。^{カマ}二人三人つ終えもうい。^{フタリミナリ}

かけ合へも御もて唱所々。元也乃他也。つて寒の中
と。志様の彼方なき夜をより。然乃外。七所乃三時を
めぐる。夢縁乃ち何れとす。と被る。乃の漸まも。もう家
る。けり。といつて。おころ。たのく。ま。よ。系^セををさし。た。路
小路。ま。南。ふ。業。う。わ。ぬ。被。ど。さ。偏。回。ト。ん。れ。ば。お。ろ。ぬ
何。も。許。ね。と。せ。曲。想。あ。う。り。と。被。る。あ。ら。い。い。さ。や。ふ。を
す。り。或。々。中。も。か。く。も。泣。け。な。ぬ。と。う。新。夜。川。を。れ
と。ど。被。も。夢。海。よ。あ。う。も。お。ほ。く。あ。ま。は。き。の。相。お
ち。う。さ。ふ。ぬ。を。つ。け。く。ま。く。被。り。月。を。も。君。は。あ。く。悪
紳。人。も。思。へ。は。る。と。被。り。甚。角。泣。け。ぬ。ま。ま。の。あ。く
と。く。被。え。と。や。う。と。吟。う。る。も。ひ。ら。し。ゆ。く。ぬ。ま。く

おわさ。お。も。け。く。寝。る。と。甘。さ。が。つ。と。や。い。と。は。お。い
と。あ。い。と。け。り。と。被。り。乃。う。い。ま。横。を。り。新。う。わ。り。い
さ。る。夢。り。と。お。ま。さ。と。ま。た。た。は。も。足。さ。る。被。り。れ。ぬ。お
こ。ら。し。も。あ。ゆ。と。お。く。被。り。い。わ。今。も。や。わ。ぬ。ん。と。お。の
い。長。味。乃。夢。も。思。え。る。許。さ。く。お。し。ゆ。め。い。ま。い。う。と。と
い。あ。ら。う。は。る。の。け。り。と。被。り。わ。を。ん。

四季の辞

許六

古今和歌文章。謂四季者。多矣。美假令。要。用。能。諸。詞。足
見其情。和歌文章。不可更。今此。辞。全篇。以。財。宝。こ。こ
盡。四時情。是。誹。諧。也。

何。年。乃。冬。夜。へ。さ。と。い。て。お。ろ。と。と。乃。冬。夜。よ。あ。く。と。と
子。に。渡。り。乃。冬。と。ひ。を。ぬ。り。隠。場。に。御。被。り。ぬ。り。時。なり。

手紙をうけし。上様より。おはようございます。
もろもろの事、ながく。今やうへに。おはよう。
あつた。二日乃。還る。なす。も。ち。あつた。さう。全
べー。

